

令和7年度大阪府生野聴覚支援学校 学校教育自己診断 結果分析

1 結果分析の手法

- (1) 学校教育自己診断の項目は、府教育庁の「自己診断実施上の留意点」に基づき、府教育庁が要項で定める学校教育自己診断の内容（必須項目）と本校独自の項目を付加した内容で診断票を作成し、児童生徒、保護者、教職員を対象に実施した。
診断項目については、昨年度結果と比較できるようにほぼ同じ内容で実施した。
(児童、保護者および教職員の項目数や内容の見直しを一部実施している。)
回答は「1 (A) : よくあてはまる」「2 (B) : ややあてはまる」「3 (C) : あまりあてはまらない」「4 (D) : 全くあてはまらない」とした。
- (2) 集計に当たっては、肯定的な回答【A+B】(肯定率)、否定的な回答【C+D】(否定率)、無回答(無回答率)に分類し、顕著な数値を網掛けで表示するとともに、前回結果と比較できるようにその差を変化ポイントとして表記した。
- (3) 回収率は、児童生徒 100%、保護者 70.3%、教職員 100%であった。

2 児童生徒 結果分析

- (1) 小学部児童（一人あたり 2.4 割）
 - 肯定率の全体平均は 92.5%で、前回の 89.1%より 3.4 ポイント増加した。否定率の全体平均は 7.3%で前回の 9.3%より 2.0 ポイント減少した。
 - A 回答だけで 60%を超えた項目数は 11 項目に増加した（前回 9 項目）。「2 一緒に遊ぶ友だちがいる。」(87.8%)、「3 先生は、きこえやからだの障がいについてよくわかってきている。」(70.7%)、「4 先生に、相談したり話したりできる。」(61.0%)、「5 先生は、わたしががんばったことをほめてくれる。」(73.2%)、「8 いのちの大切さや生活のルールについてべんきょうしている。」(61.0%)、「9 先生は、みんなが安心して学校ですごせるようにかんがえてきている。」(68.3%)、「10 先生は、地震や火事などが起こったとき、どうすればよいかわかりやすく教えてくれる。」(87.8%)、「11 行事は、たのしい。」(87.8%)、「12 ちかくの学校やちいきの人との交流は、たのしい。 <東桃谷小学校や三校交流会をふくむ>(80.5%)、「13 給食の時間は、たのしい。」(70.7%)、「15 学校のタブレットをつかっている。」(65.9%)
 - D 回答だけで 20%を超えた項目はなかった。
 - 肯定率が 90%以上の項目数は 12 項目に増加した（前回 9 項目）。「1 学校へ行くのがたのしい。」(90.2%)、「2 一緒に遊ぶ友だちがいる。」(97.6%)、「3 先生は、きこえやからだの障がいについてよくわかってきている。」(92.7%)、「4 先生に、相談したり話したりできる。」(92.7%)、「5 先生は、わたしががんばったことをほめてくれる。」(95.1%)、「6 べんきょうは、分かりやすい。」(95.1%)、「8 いのちの大切さや生活のルールについてべんきょうしている。」(97.6%)、「9 先生は、みんなが安心して学校ですごせるように考えてきている。」(92.7%)、「10 先生は、地震や火事などが起こったとき、どうすればよいかわかりやすく教えてくれる。」(95.1%)、「11 行事は、楽しい。」(97.6%)、「13 給食の時間は、たのしい。」(90.2%)、「15 学校のタブレットを使っている。」(95.1%)
 - 否定率が 20%以上の項目はなかった（前回 1 項目）。
 - 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目は、2 項目だった。「4 先生に、相談したり話したりできる。」、「7 学校では、将来のしごとやゆめについて、はなしをきいたり考えたりする時間がある。」
 - 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。
- (2) 中学部生徒（一人あたり 5.9 割）
 - 肯定率の全体平均は 93.0%で前回の 89.1%より 3.9 ポイント増加した。否定率の全体平均は 7.0%で前回

の10.9%より3.9ポイント減少した。

- A回答だけで60%を超えた項目は前年と同様、4項目であった。「2 なかのよい友だちがいる。」(70.6%)、「3 先生は、きこえや体の障がいについてよく理解してくれている。」(70.6%)、「10 地震や火災などがおこった時、どのような行動をとればよいか、分かりやすく知らされている。」(64.7%)、「11 行事は、楽しく参加できる」(76.5%)
- D回答だけで20%を超えた項目はなかった(前回1項目)。
- 肯定率が90%以上の項目は12項目に増加した。(前回11項目)。「1 学校に行くのは楽しい。」(94.1%)、「2 なかのよい友だちがいる。」(100%)、「3 先生は、きこえや体の障がいについてよく理解してくれている。」(100%)、「5 先生は、わたしががんばったことをみとめてくれる。」(100%)、「6 授業は、わかりやすい。」(94.1%)、「7 学校では、大きくなった時のことや将来の生き方について考える機会がある。」(94.1%)、「8 命の大切さや社会のルールについて学習している。」(94.1%)、「9 先生は、みんなが安心して過ごせるよう、気を配ってくれている。」(94.1%)、「10 地震や火災などがおこった時、どのような行動をとればよいか、わかりやすく知らされている。」(94.1%)、「13 給食の時間は、たのしい。」(94.1%)、「14 先生は、いじめについてわたしたちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」(94.1%)、「16 部活動は、楽しく参加できる。」(94.1%)。
- 否定率が20%以上の項目はなかった(前回3項目)。
- 前年度比較で、肯定率が10ポイント以上増加した項目は4項目だった。「4 気軽に相談できる先生がいる。」、「7 学校では、大きくなった時のことや将来の生き方について考える機会がある。」、「13 給食の時間は、たのしい。」、「14 先生は、いじめについてわたしたちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」
- 前年度比較で、否定率が10ポイント以上増加した項目は1項目だった。「11 行事は、たのしく参加できる。」

3 保護者 結果分析

(1) 幼稚部保護者(一人あたり3.3票)

- 肯定率の全体平均は91.9%で前回の94.7%から2.8ポイント減少した。否定率の全体平均は5.8%で、前回2.5%から3.3ポイント増加した。
- A回答だけで60%を超えた項目は7項目に減少した(前回12項目)。「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(60.0%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(63.3%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(70.0%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(73.3%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(63.3%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(60.0%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(80.0%)。
- 肯定率が90%以上の項目は10項目に減少した(前回13項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(96.7%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(100%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(96.7%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(96.7%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(96.7%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(90.0%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(93.3%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(96.7%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(100%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(93.3%)
- 否定率が20%を超える項目はなかった(前回同様)。
- 前年度比較で、肯定率が10ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率が10ポイント以上増加した項目はなかった。

(2) 小学部保護者（一人あたり 3.1 票）

- 肯定率の全体平均は 94.9%で、前回の 93.2%から 1.7 ポイント増加した。否定率の全体平均は 1.6%で前回の 3.5%から 1.9 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 12 項目に増加した（前回 6 項目）。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(78.1%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(65.6%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(65.6%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(65.6%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(81.3%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(75.0%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(62.5%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(65.6%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」(62.5%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(96.9%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(65.6%)、「15 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあたっている。」(62.5%)
- 肯定率 90%以上の項目は、前回同様 14 項目であった。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(90.6%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(93.8%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(96.9%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(96.9%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(100%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(100%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(90.6%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(93.8%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(96.9%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(100%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(96.9%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」(96.9%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(100%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(93.8%)
- 否定率が 20%を超える項目はなかった。
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

(3) 中学部保護者（一人あたり 11.1 票）

- 肯定率の全体平均は 95.1%で、前回の 65.6%から 29.5 ポイント増加した。否定率の全体平均は 1.4%で前回の 28.1%から 26.7 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 4 項目に増加した（前回 2 項目）。「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(77.8%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(66.7%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(66.7%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(77.8%)
- 肯定率 90%以上の項目は 10 項目に増加した（前回 2 項目）。「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(100%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(100%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(100%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(100%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(100%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(100%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(100%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(100%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(100%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(100%)
- 否定率が 20%を超える項目は 1 項目に減少した（前回 9 項目）。「15 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあたっている。」(22.2%)。
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 13 項目に増加した。「1 学校は、体罰防

止にとりくんでいる。」、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」、「15 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあたっている。」、「16 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」

- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

(4) 保護者（全体）（一人あたり 1.4 票）

- 肯定率の全体平均は、94.3%で前回の 91.8%から 2.5 ポイント増加した。否定率の全体平均は 3.6%で前回の 5.7%から 2.1 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 8 項目に増加した（前回 7 項目）。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(64.8%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(60.6%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(60.6%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(63.4%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(76.1%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(73.2%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(63.4%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(87.3%)
- 肯定率が 90%を超える項目は 15 項目であった（前回 11 項目）。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(93.0%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(91.5%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(98.6%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(97.2%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(98.6%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(98.6%)、「8 学校は、教育に必要な情報を知らせる努力をしている。」(93.0%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(93.0%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(95.8%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(95.8%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に共感できる。」(90.1%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(100%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて適切な指導を行っている。」(94.4%)、「15 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあたっている。」(90.1%)、「16 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」(90.1%)
- 否定率が 20%を超える項目はなかった。
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

4 教職員 結果分析（一人あたり 1.4 票）

- 肯定率の全体平均は 92.8%で、前回の 89.6%から 3.2 ポイント増加した。否定率の全体平均は 5.3%で、前回 9.8%から 4.5 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 5 項目に増加した（前回 4 項目）。「5 私は、幼児児童生徒の個人情報を適切に管理している。」(75.4%)、「10 私は、幼児児童生徒の人権を尊重し、障がい理解を深めながら日常の教育活動を行っている。」(62.1%)、「12 幼児児童生徒の指導について、関係教員間でよく話し合っている。」(69.7%)、「13 幼児児童生徒が楽しく行事に参加できるよう、工夫・改善を行っている。」(63.6%)
- 肯定率が 90%を超える項目は 18 項目に増加した（前回 13 項目）。「1 本校は、体罰防止に取り組んでいる。」(94.2%)、「2 学校経営計画を踏まえ、学校の教育目標に向かって組織的に業務をすすめている。」

(95.7%)、「3 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」(91.3%)、「4 事故・災害等に対して迅速に対処できるよう、役割分担が明確化されている。」(97.1%)、「5 私は、幼児児童生徒の個人情報適切に管理している。」(97.1%)、「6 いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」(95.7%)、「9 私は、カウンセリングマインドを取り入れて幼児児童生徒指導を行っている。」(91.3%)、「10 私は、幼児児童生徒の人権を尊重し、障がい理解を深めながら日常の教育活動を行っている。」(98.6%)、「11 学校は、個別の教育支援計画、指導計画に基づき、工夫・改善しながら、幼児児童生徒の指導にあたっている。」(95.7%)、「12 児童生徒の指導について、関係教員間でよく話し合っている。」(98.6%)、「13 児童生徒が楽しく行事に参加できるよう、工夫・改善を行っている。」(100%)、「14 必要な視覚支援やICT機器を授業などで活用している。」(94.2%)、「15 防災教育・安全指導が十分行われている。」(94.2%)、「16 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあたっている。」(94.2%)、「17 教育活動に必要な情報を積極的に収集し、幼児児童生徒や保護者への周知に努めている。」(94.2%)、「18 幼児児童生徒の指導において、家庭との緊密な連携ができている。」(95.7%)、「19 校内研修は、幅広い教育実践に役立つような内容となっている。」(91.3%)、「21 幼児児童生徒一人ひとりの興味・関心、適正に応じた将来や進路について考える機会を設けている。」(92.8%)

- 否定率が20%を超える項目は前回同様1項目だった。「8 学校には、管理職と教育活動について話ができる機会や場がある。」(26.1%)。

(参考：R6→肯定率：69.7% 否定率：30.3% R7→肯定率：73.9% 否定率：26.1%)

- 前年度比較で、肯定率の変化が10ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率の変化が10ポイント以上増加した項目はなかった。